

令和7年度 第1回 香南市産業振興計画策定委員会【議事録】

□日時：令和7年6月27日(金) 14:00～16:30

□場所：香南市役所本庁舎6階 604・605 会議室

□出席者：○策定委員 12名【赤池委員(委員長)、別府委員(副委員長)、石丸委員、三谷委員、岩神委員、明石委員、森 善康委員、松田委員、小笠原委員、松村委員、飯島委員、江口委員】

○市職員 17名【濱田市長、中島課長(情報政策課)、門脇課長、近藤補佐、小林係長(企画財政課)、小松課長、佐田補佐、川西係長、久武係長、澤村主事(農林水産課)、萩野課長、中屋補佐、藤原係長、平尾主幹、小松主査、野村主査、山本(商工観光課)】

○傍聴者 なし

○オブザーバー 1名【高知県地域支援企画員 山尾様】

□欠席者：○策定委員 5名(森 周平委員、岡本委員、梶原委員、川崎委員、森尾委員)

◆開催目的

第2期香南市産業振興計画の総括及び第3期香南市産業振興計画の取り組みについて、各分野の担当課長より報告及び説明を行い、各分野別部会長をはじめ、有識者や産業関係団体の代表者と分野を超えた横断的な議論を交わす。

◆内 容

- ・ 第2期香南市産業振興計画の総括及び第3期香南市産業振興計画の取り組みについて、各担当課長より報告。
- ・ 各部会長より令和7年4月23日から5月19日までに開催された各分野別部会での協議内容及び補足説明等。
- ・ 上記のことについての意見交換

1. 開 会

事務局挨拶

欠席委員5名について報告。

オンライン(Zoom)でイシン株式会社の明石委員が参加。

本日の会は過半数以上の方の出席により、成立する旨を報告。

(香南市産業振興計画策定委員会設置条例第6条)

2. 市長挨拶

(濱田市長)

皆さんこんにちは。本日は第1回香南市産業振興計画策定委員会にご出席いただき、感謝申し上げます。

報道によると、本日四国地方も梅雨が明け、平年よりも20日ほど早いということで、本当に暑い夏がくる。その暑い中、来ていただき感謝を申し上げる。

ご承知の通り、学校等であったり様々な要因、そして人口減少による人手不足、人材が足りない中で、いかに地域を、地域の産業を発展していくかということで、皆様のお知恵をお借りしているところである。

今年度も引き続き、しっかりと前に向けて新しい取り組み等始めるよう、市役所挙げて取り組んでいくので、委員の皆様にはさまざまな立場でご意見を頂戴したいと思うので、どうぞよろしくお願いを申し上げ、私からのご挨拶とさせていただきます。

3. 委員自己紹介、委員長及び副委員長選出

委員自己紹介。

委員長及び副委員長の選出。(香南市産業振興計画策定委員会設置条例第5条第1項)

立候補なしのため、事務局案として、委員長を高知大学 赤池委員、副委員長を副市長 別府委員を提案し、異議なしとの回答により、決定。

3. 議 事 (進行: 赤池委員長)

① 第2期香南市産業振興計画の総括について

【農業分野・林業分野・水産業分野】

・農林水産課 小松課長より、農業分野・林業分野・水産業分野における第2期計画の総括について、資料1を用いて説明。

(赤池委員長)

農業・林業・水産業と説明があったが、各部長から補足及び説明をいただきたいと思う。

委員の方は、説明と合わせて資料2を見ていただけると良いかと思う。各分野の数値などが記載されているので。

(石丸委員)

非常にハウス関係の資材並びに肥料農薬全てが高騰し、高止まりが続いており、部会の中でも後継者が育つ中でも厳しい状況に強いられている。

5年前から資材の高騰し、高止まりが続いている。後継者も少なからず育ってきているが、高齢で離農をせざるを得ない農家や、ハウスを建てたくても高騰しているので、断念した農家も出てきている。

中古ハウスでも、人件費、資材、運搬費、解体費用等、全て高騰していることもあって、中古ハウスであっても1000万円くらいかかる状況。

財源がない新規就農者は、非常に厳しい状況の中で農業をやっていかないといけない状況に立たされている。

果樹部の中でも、各品目部会がかなり収量を上げながら、高品質を確保しながら売上をあげていかなければいけない状況になっている。今後も、部会で戦略を組みながら進めていきたい。

（三谷委員）

林業の方も農業と同じく物価高騰、機械、資機材全て費用が上がっている。

木材は市場価格なので、工業製品のようにいくらお金がかかったからこれくらいの値段で売りたいといってもできない。生産費は上がっていくけれど、製品の価格は逆に下がっていくような状況があるので、大変である。

ただ、間伐などへの補助金があるので、活用をしているんな形でやっている。

問題点は、山は所有者が分からない、境界線が分からない、それを明らかにはっきりさせないと色んな作業ができないこともあり、そこを森林環境譲与税など使って行政が調べていってくれているので、それを基に所有者に話をして整理をしている状況。

管内、まだまだ間伐や色んな手入れが必要な山がほとんどなので、少しでも早く進めれるよう努力をしていきたい。

水産業部会は補足説明なし。

【商業分野・工業分野・観光業分野】

・商工観光課 萩野課長より、商業分野・工業分野・観光業分野における第2期計画の総括について、資料Ⅰを用いて説明。

（赤池委員長）

商業部会の補足を部会長よりお願いしたい。

（岩神委員）

部会の中で、家庭内で子供と将来のことについて話している。

奨学金制度や補助金について、親だけではなく子供にも情報を教えるような機会を設けてはどうか。今の中学生は、高校・大学を見据えて勉強をしているので、教えてもらいたいとの意見があった。

個人的な意見だが、フジグラン野市で「マルシェこうなん」として、市内の複数店舗が一緒に出店しており、その続きとして蔦屋書店でも出店している。10店舗以上参加しているので、香南市でないとできない事業と感じている。店舗数がある程度ないと「マルシェこうなん」としての宣伝効果がない。

これからも、市から各商店へバックアップしてもらい、今後も蔦屋書店等で出店できたらよいと考える。

(赤池委員長)

奨学金の助成については、また第3期の取り組みの方でも説明があるかと思うが、自分が担当している授業でもこの話をすると、学生たちの目の色が変わって、携帯で写真を撮る音がしていた。

学生たちが興味をもっている気がする。

工業・観光業部会の部会長は、本日欠席のため補足説明はなしということである。

皆様から、ご質問やご意見等はないか。

(松村委員)

最近、お米を作る方が減っていつている。昔は1人の人が何反も借りて作っていた。

しかし、病気や高齢により作れなくなり、貸していた農地が余って次の人を探してほしいということになっているが、最近は商社や法人が入ってフォローをしてくれている。

自分たちは佐古地区で、こんなに梅雨が早く明けて、水がどうなるか心配している。

田(稲)だけでなく、今佐古地区は玉ねぎを作っている農業法人が田をやってくれており、もっと広げていきたいと言ってくれている。地域をまたいで借りているので、情報共有をしながら空いた農地を素早く借りてもらえるような体制ができればいいのではないか。

(小松課長)

松村委員のいう佐古のあたりについては、水が大事ということで、水路の整備も第2期の工事に入ろうとしているところである。

また、佐古は水が無いが、水はけが悪いところもあるので、その都度工事等で対応をするようにしている。

空いた土地については、農業委員会の方で記録があり、斡旋ということで、借りたい人が来た場合、データとしてすぐに閲覧できるようになっている。

誰の土地がいつから空いているのかなど細かい情報も公開できるようになっている。ぜひ活用していけたらと考えている。また、そのようなものがあるということもPRをしていきたい。

(赤池委員長)

全体的な話になるが、第1期、第2期とみてきて、産業振興の中で担い手不足というのが大きい。

分野・産業問わず、人をどう確保するのか、この10年振り返ってそこが難しい。

各分野で今まで努力されてきたが、第3期に向けて、個別での対応はそろそろ難しいのではないか。

具体的な案がある訳ではないが、この産業振興計画について皆さんで議論をする中で、他分野他産業と連携しながら担い手をどう確保していくのか、しっかり各部会で議論をしていただいたうえで、上位計画に対し提言していくのが必要ではないか。

皆様、様々取り組みをされているのは承知、横の連携をどのような形でできるのか、デジタル化や外国人といった話も出てくる。

法律の改正だけでなく、第3期の計画で取組んでいけるように、皆さんのお知恵をいただきたい。

もう一点、水産業に質問したい。かちりじゃこを給食に提供している。5年で351回。週に2回程度かちりじゃこが給食に出てくるということであるか。

(小松課長)

実際に給食を食べていないが、ご飯に混ぜたり、野菜に和えたり、そのようなメニューで提供して

おり、回数はその頻度出ていることで間違いない。

その他農産物についてもできるだけ地場産物を使っていくようにしている。

（赤池委員長）

最近、給食が少ないという話が出ていたので、産業振興の中で魅力的な香南市を作っているのだなと感じる。

農業の担い手についてだが、農業の担い手は香南市の核になると考える。毎年、担い手相談は30件程度、毎年平均して9件が就農につながっているということだが、親元就農の方も含めて30名はどのような方が相談に来ているのか、どういう方が就農にマッチングできていないのか分かる範囲で教えてほしい。

（小松課長）

年間30名程度、市に相談がある。中には農業をするにあたっての心構えが、悪くいえば「植えて、水をやればできる」と簡単なイメージの考えの方がいる。きちんと農業のノウハウの研修をしていかなければと説明はしている。

その中で、農業担い手育成センター（四万十町）等で1年間研修を行うことが難しいと言って断念する人もいる。

今後の見通し・計画がたてられない方に対して、行政からは厳しいことをいうこともある。その中でも、親元就農であったり、新規就農者をサポートしていているのが9名。

（赤池委員長）

石丸委員の話もあったが、資材高騰で自己資金がかなり必要になるということ、これも5年間で変わったことだと感じている。20名についての状況は分かった。

その他ご意見等、皆様第2期の振り返りについてはよろしいか。

第2期、令和6年度までの5年間について皆様に確認をいただいたということで、それではこれからの3年間にかかる令和7年度から令和9年度について、ここから議事②「第3期の取り組みについて」にうつりたいと思う。

全体の説明を事務局からお願いする。

次ページへ

(赤池委員長)

第3期香南市産業振興計画について、事務局より説明をお願いする。

② 第3期香南市産業振興計画の総括について

事務局より、第3期香南市産業振興計画の全体部分について説明

(赤池委員長)

事務局から説明があったが、この産業振興計画については、特に仕事の部分をしっかり議論し、しっかりと上位計画である未来戦略にあげていく、意見を言っていくということが大切。

特にこの分野では、まちづくりの全体の中でも、仕事・産業について特化して議論をしていくということになっている。

第3期の取り組みについて、各担当課長より取り組みの説明をお願いする。

【農林業分野・水産業分野】

・農林水産課 小松課長より、農林業分野・水産業分野における第3期計画の取組について、資料3を用いて説明。

(赤池委員長)

第3期の取り組みについて、部会からの補足等をお願いする。

(石丸委員)

担い手確保に向けた取り組み、後継者親元就農含め、非常に担い手が少ないのが現実。

経費等色々な事を考えると親が子供に経営移譲をさせない、経営をさせても厳しいということで、なかなか経営者が育たないというのが大半。

後継者、同一世帯で育った子を指導するのは難しい。親子で喧嘩して離農していく事例もある。

親子であまり近すぎず、遠くで見守って指導していく体制でないと、親子でも難しいのではないかな。

ニラについては、フィリピン・ベトナム・インドネシアなどの技能実習生を入れて、大規模に活動している農家の方もいるが、人件費も含めて経費も上がってきているため、なかなか経営が厳しい状況が続いている。

しかしやはり、ニラの製品を仕上げるには技能実習生の手を借りないと難しい状態に香美市も含めてなっている。

園芸用ハウス整備事業についても、色々と経費が掛かる中、サポートハウスの研修生がこの8月から自立して、深淵で1億円のハウスを建て、栽培に入る。8月の定植でハウスも仕上がっている。熱心な後継者を各部会で育てていってあげたいと思うし、部会の力が大事。

技術も分からないまま県外から来ている。農業関係者の方が力を添えてあげて後継者を育成していきたいと思う。

(三谷委員)

初めて今期から農林業部会として農業と林業が一緒になり、部会に参加をした。農業と林業の規模の違いを実感している。

農業I部会の全体の生産額が、森林組合全体の総売り上げと変わらない。農業は大きな産業だと実感した。

今後林業だけではなく、農業のことも勉強していきたい。農業の方にも林業を知って欲しい。お互い勉強し合えることを今後やっていきたいと部会でも話をした。

後継者不足は林業も苦勞している。香南市で林業大学校を卒業した方が森林組合に入る、活躍してくれている。前向きで今までの職員も刺激を受けている。

香南市の中で、林業大学校に来てくれる人を増やしたい。来ている人の中で、理由というのは、家族が山を持っており、何か活用できるのではと考え、入学したという人が多い。

林業大学校に来ながら、県からも収入を得ながら勉強できる学校なので、香南市で林業をやっていくという人が増えていけばいいと思う。

(赤池委員長)

第3期については、分野ごとにご意見や質問をいただきたい。委員の方から、農林業・水産業分野についてご質問等はないか。

(松村委員)

私自身は、夫のUターンで農業初めて、30年。花とオクラをやっている。

花は水が大事で、花の水を山から引いている。山の手入れが行き届かず、山が崩れていることも心配。山からの水ということであつながつている。

次男が就農したが、うちは機械がなく近所の人の手を借りて作業をしているので、今度は息子が色々なところに声をかけられ、作業を手伝っていくのかなと思っている。

農業・林業と人が繋がっていく、若い人が地域の人と話をしていくことは勉強になると思うので、山のことも教えてもらいたいと思う。

また、お嫁さんがネイリストとして高知市内で働いているが、子供も小さいので香南市に移転をするよう考えている。

商業の相談窓口を分かりやすく教えてくれたら、伝えてあげたいと思う。

(赤池委員長)

Uターン、親元就農、産業に関わらず、若い人達がネットでもいいのでコミュニケーションが取れるコミュニティはあるのか。

(松村委員)

色々あるのだが、花の事は部会で話をしたりする。

農業に関しては、息子も私自身もそうだが、添加物とかを気にして自然農(肥料を使わない農法)をネットで検索して情報を得ている。

そうすると、ネットには農業をやってみたいけど、どうやっていけばいいのか分からないという方がたくさんいる。

自然農についても偏見もある。土地をすぐ荒らすという事例があり反感もあるが、全員がそうではない。そういったことを見極めたり、情報交換をし、農業をやりたい人を増やす、働きながら農業を

やりたい、週末の農業ということを考えてもいいのかなと思う。

そういう人たちは耕作放棄地とかの方がやりたい。

(赤池委員長)

産業部会、若い人たち、香南市に戻られた人たちが、産業分野を超えて集まる場があるのか。

(松村委員)

青壮年部がある

(赤池委員長)

それは商業も工業も同じか。

(松村委員)

青壮年部は農業になる。

(石丸委員)

松田委員が詳しいが、自分の子も青壮年部、消防団に加入して、近隣の人と知り合い、小学校での活動等に参加している。色んな経験をしていった方がいいのかなと思う。

ひとまず、色んな部会に参加して、色んなつながりをつくっていく方法で入っていくとかはどうだろうか。

(松田委員)

農協には青壮年部という部会がある。昔 30～40 年前は各地区で活発に活動をしていた。

コロナあたりから、時代の背景により、青壮年部活動も 30.40 代が主な年齢、自分が主体で農業をしないといけない年代になってきて、各地区で解散してきている。

各地域の祭りに様々な職種の人たちが集まって活動をしている。そこで、知り合っていくこともある。農協の青壮年部については弱ってきているのが現実。

色んな地域での集まりや消防団もあるので、みんなで活動をしていてもらいたい。

(濱田市長)

商工会にも青年部があり、野市町の田園祭は商工会青年部がやっている。私自身も商工会の青年部や農協の青壮年部とも定期的に交流をしている。

商工会の青年部と農協の青壮年部が分野を超えて集まるのもいいのでないか。今度話をしてみる。

農業についても、松村委員がおっしゃるようなニーズが多い。

この秋から農業公社が作っている「特別栽培米」という農薬を半分しか使わないお米を、保・幼・小・中の給食に提供する。そのようなことを少しずつ取り組んでいる。

また、来年度から農林水産課の方では、有機やオーガニックに向けた勉強会や仕掛けを考えている。市民農園は高知市では盛んであり、仕事を引退した方や自分のこだわりの作り方で農業をしたい方、高知市は 10 か所くらい市民農園があって、その中でも有機の市民農園や何を使ってもいい市民農園があり、そのような形もいいのではないかなと思う。

野市町では宅地化が進んできているので、逆に従来の大規模の農業ができない。耕作放棄地で

そのような取り組みができれば、野市にきている方で興味のある方が農業をできると考える。

そうすると、従来の慣行農業、香我美町や野市町広いところでやっている方とのすみ分けも大事でないか。

香南市として慣行農業がメインであるが、それと同時にやりたい人が様々な農業ができる環境を作っていきたい。林業もそう、半農半林、半農半観光でもいい。

この後、説明があると思うが、未来人材育成奨学金返還助成事業というものがある。奨学金を返すことへの補助で、私がこだわって対象にしたかったのは農業である。4月からは一次産業などを大学や専門学校で学んで帰ってきた方40歳までだが、奨学金の一部を香南市で助成していくということを始めたので、色々な場で宣伝したい。

（小松課長）

松村委員から言われた交流は、自治体でも数年前まで香美市香南市と合同で、新規就農者歓迎会を指導農士や新規就農者の先輩と意見交換や懇親会を、様々な品目の方が集まって開催していた。

近年は少なくなってきたので、今年度7月には南国市・香美市・香南市3市で勉強会と懇親会を開催する。また、SNSでも積極的に発信してコミュニケーションを取っていると聞いている。

市民農園については、高知市では市民農園は満員とのことで、来週高知市の担当課へ視察に行くようになっている。管理や市が農園を借りれるのかといったことを聞きに行くので、またご案内する。

（三谷委員）

様々なところで間伐作業しているが、里山の方では出来ていなかったのも、そのようなことができるのであれば、行政と協力して貢献したい。

（萩野課長）

創業に関する質問に対してお答えさせていただく。

新規であったり移転であったり、様々な支援があり、主体は商工観光課と商工会で創業に関する支援をさせていただいている。

まずは、創業に関して事業の計画を一度聞かせていただいた上で、支援を提案させていただけたらと思う。

空き店舗で創業する場合は補助金もあるし、創業後も商工会や観光協会の会員になっていただけるとイベントへの参加であったり、その他ご案内をさせていただけるのではないかと思いますので、一度ご相談に来ていただけたらと思う。

（赤池委員長）

農林水産業分野についてのご意見等は、一度ここで、終わらせていただく。

資料を見ていると、国税調査によると年間60名一次産業の従事者が減っている。

年間60名減少が続いていくと、新規の担い手10名への期待が大きい。現在農業に携わっている方が継続していけるような支援の体制になっているのかなという風に感じた。

ここで、休憩をとらせていただいき、15時40分から続きを始めたいと思う。

【休憩（7分）】

【再開（15 時 40 分～）】

【商業分野・工業分野】

- ・商工観光課 萩野課長より、商業分野及び工業分野における第 3 期産業推進計画の取り組みについて、資料3を用いて説明。
- ・続いて、萩野課長より、工業部会での意見等を説明。

（赤池委員長）

商業部会からの補足がありましたら、ご説明いただきたいと思います。

（岩神委員）

部会では、奨学金の話、事業継承の手続きや費用の話が出ていた。

また、野市インター開通による影響の話があり、職種によって影響が違う。中村時計店は市外・県外からお客さんが来て便利になったと話していた。

私自身としては、今まで野市で降りていた人が、そのままイオンまで行っているのではないかと感じている。

商業面としては、香南市がもっと取り組んでいったほうがいいのではないと思う。

また、自分は客船にも出店しており、乗船者向けのバスが出ているが、高知市周遊が多い。香南市で乗船者が来ているのは絵金蔵、あとは香美市の龍河洞だけ。

2,000 人来ている船もあり、そのうち何人が香南市に来ているのか分からないが、良い立地をしているので、もったいないなと思っているところである。

（赤池委員長）

明石委員から、高知オフィスの取組や、第 2 期の実績からみた第 3 期の目標設定や取り組みについて説明をお願いします。

（明石委員）

高知オフィスでは自治体向けのテレマーケティングをさせていただいている。

自治体の雑誌も出しているのだが、AIの流れが最近東京の方でも強くでてきており、ホワイトカラーの仕事が、徐々に人の仕事が奪われる状況にはなっている。

今年・来年・再来年にはAIの登場によりのサービスの状況が変わってくるのではないかと。

BPOやコールセンターにあっては地方に拠点があって、その余波がでてくるのではないかと感じている。

スタートアップやベンチャー企業は、東京市場東証取引所が時価総額100億円以上ないと、東証のグロース市場が上場してはだめですとなり、時価総額100億円に到達しないといけない難しい状態になってきている。

事業承継が中心だったが、これからはベンチャー企業やスタートアップは会社を売って規模を大きくしていく手法にシフトしている。

また、以前から話をしているのが、企業版ふるさと納税も徐々に活用が広がってきている。

企業版ふるさと納税の活用についても、香南市でも企業からの寄附を募って出来ることはあるのではないかと考えているし、弊社もそのお手伝いができるのかなと思う。

ITやサービス会社と香南市の企業との接点作りとかを含めて、お話をさせていただけたらありがたい。

(赤池委員長)

商業・工業分野について、委員の方からご意見等いただきたい。

奨学金返還助成事業については、学生も自分事として地域のこと、将来のことを考えるきっかけとなっていると思う。

卒業後、香南市に住む方に情報提供できないと60人の活用が難しいと思う。大学としても協力していきたい。

(江口委員)

質問ではないが、人口減少・中山間対策が大きな課題となる中で産業振興計画も「担い手確保」が中心となっている。

もともと、産業振興計画は、地産「外商」の部分がメインだったのに、少なくなっている。

そうしたこともあり、我々のやっている県産業振興計画地域アクションプランも企業案件が少なくなっており、物部川地域本部としては地産「外商」部分の掘り起こしが課題であるので、地域の企業の取り組みに対して動こうとしている。

ぜひ香南市の商工業・観光分野も掘り起こしをしていこうと考えているので、市も協力していただけたらと思う。

また、以前にクルーズの担当課にいたのだが、シャトルバスで高知市にいたいという声、船会社が作ったツアーでバスに乗って高知市内に行っている。

観光のコンテンツとして香南市にもう1つ名所ができれば、少しは変わるのかなとは思う。

そのような取り組みを我々も考えていかないといけないと思う。

(萩野課長)

企業版ふるさと納税だが、令和6年7年にかけて、大塚商会から寄附をいただいている。

その寄附を活用して、360度カメラを使った香南市内の観光エリアを撮影した動画を作成し、関西万博のデジタルトラベルゾーンで放映される予定。期間は8月16日～22日、23～29日に約9分程度流してもらえる。

映像についてはデータとVRの機械を含めて寄附を頂いている。今後香南市に来ていただいた人の観光素材としてつかっていききたい。

【観光分野・】

・商工観光課 萩野課長より、商業分野及び工業分野における第3期産業推進計画の取り組みについて、資料3を用いて説明。

(赤池委員長) 観光部会からについてご意見等ありましたら、いただきたいと思う。

(小笠原委員)

「ものべすと」という観光博を行っている中で、デジタル商品券事業をしていただけるということは、ドラマ終了後も続くということで観光客へのPRとして大きいものだと思う。

第2期の取り組みで、観光施設の入込客数が目標に足りていなくてBであったが、これから先、令和9年度までの目標というところも、弊社としても達成できるように努力をしていきたい。

クルーズ船の話もあったが、クルーズ船の受け入れは団体ということで条件がある。

高知市内に団体のバスが行っているが、ただ必ずそこでお金を使っているわけでもない。

団体バスが止まれるような、みかん狩りやヤ・シィパークなどもあるので、誘客を頑張っていきたい。

(赤池委員長)

大学として、9月に台湾から110名研究会で来るので、40名ほど香南市に連れてこようと考えており、バスも予約している。

他にご意見等はないか。

これまで各分野について第3期の計画について委員の皆様にご確認いただいた。

第3期が始まったところであるので、今後各目標数値や、各事業について進捗状況を皆様に確認をしていただきながら、より良い方向へとアドバイスをいただくようになる。

今回の会議の中で、改めて分野を問わず、担い手が重要なところ、成果が出ている部分まだ難しいところ、さらに状況が厳しくなってくる中で、分野を超えて連携をできる形というのを、しっかりと産業振興計画、上位計画の中で議論していただけるように、事務局も含めてしっかり伝えていきたいと考える。

今回は特に審議はありませんが、その他よろしいか。

(門脇課長)

企業版ふるさと納税のご意見をいただいた件で、少し補足をさせていただく。

企画財政課で企業版ふるさと納税を担当している。令和5年度から行っており、寄附の対象となる事業は、地域再生計画に基づいて実施するまち・ひと・しごと創生寄附活用事業とあるので、未来戦略に位置付けられている事業が対象である。

実績は、令和5年度4社510万円、令和6年度6社690万円ご寄附をいただき、こどもよさこいやこもれびマルシェに活用している。

今後も未来戦略の実現に向けて、企業版ふるさと納税についても積極的に取り組んでいきたいと考えている。

(事務局)

事務局より令和7年度のスケジュールについて説明(参考資料1)

◆ 閉会挨拶

(別府副委員長)

今日は、本当に熱心に議論、様々なご意見をいただき、感謝を申し上げます。

今年度から第3期の新しい計画をスタートしている。依然として、原材料費が高いとか担い手不足や高齢化しているとか様々な課題もあるが、様々な委員の皆様から現状の報告や有機農業のニーズなんかもご意見いただいた。

本市としても、未来人材育成奨学金返還助成事業の拡充や、特別栽培米の取り組みも始まっている。また、観光博覧会「ものべすと」に合わせたデジタル商品券事業なんかも新しく取り組みを始めることとしている。

こういった形で取り組んでいき、なかなか特効薬はないが、粘り強くこういった形で委員や関係団体の皆様と連携しながら、一緒に知恵を絞りながら香南市の活性化に向けての取り組みを続けていきたいと思うので、引き続きご協力の方をお願い申し上げ、閉会のご挨拶とさせていただきます。

(事務局)

以上をもって令和7年度第1回香南市産業振興計画策定委員会を終了する。

以上